今年もアルミ原料ひっ迫

講演要旨

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏

6日に開催された東海非鉄リサイクル協同組合・青年部主催の研修会で橋本アルミの橋本健一郎取締役が「2010年アルミ原料ひっ迫の可能性」をテーマに講演を行った。

▽国際新塊相場の高騰

「ロンドン金属取引所（LME）のアルミ新塊相場は一昨年の底値から20%程度上昇。本日は2000ドルを割っているが、昨年と比較すると高値圏にある。また、歴史的な水準に達しているLME在庫だが、その3分の2がトレーダーや金融機関の担保との見方が強く、流通玉を圧迫している」

▽世界新塊需要の回復

「アルミ新地金の09年世界需要は3400万トン台に収縮。だが、今年、来年と世界需要は年率プラス8%の成長を遂げる見込みで、11年には4000万トン台を回復すると予測されている」

▽国内合金生産の回復

「リーマンショック以降、生産が半減した国内自動車生産だが8月以降、状況が一変。景気対策の効果が徐々に表れ、3月の生産はピーク比86%まで回復してきた。それに伴い、アルミ二次合金の生産も8月ごろから上昇傾向を強めている」

▽国内需給のタイト化

「貿易統計を見るとアルミ原料は09年前半、その多くが輸出に回され、8月くらいから輸入が右肩上がりで回復している。国内の製品在庫も07年のピークからマイナス27%の2万5600トンに、原料在庫もピークから24%減の5万8900トンに、減少している」

▽根強い国内原料需要

「09年前半、そのほとんどが輸出に回った国内アルミ原料市場だが、国内需要が不在になったわけでなく、現在でもアルミ二次合金原料の77%をリサイクル原料が占めている」

▽輸入塊の高騰

「従来、二次合金メーカーは、リサイクル原料の不足分を、中国産ADCやロシア産ベース塊『AK5M2』などで補ってきた。だが、中国市場の成長とともに、これまで輸出されていた中国産ADCが中国国内で消費されるようになってきた。価格も年初から50%増の2300ドル近辺と高値圏で推移。AK5M2も2000ドルから2100ドルに値上がりしており、合金メーカーがスクラップの代替として使用できる価格ではなくなってきている」

▽2010年も需給ひっ迫へ

「国内アルミ原料市場は本年、①内需の回復と在庫調整完了②輸入合金塊の高騰③中国需要増加に伴う輸出拡大などを要因に、需給ひっ迫が予測される」

内需回復も輸出拡大

海外ベース塊は買い負け

相

中

二層管のアルミ混入に注意喚起

京浜組 東京非鉄協

都内の銅リサイクル企業で構成する東京非鉄金属商工協同組合は、銅管スクラップにアルミの複合材料が混入しないよう取扱業者に注意を呼びかけている。エアコンの熱交換器などでアルミと二層構造の銅管が使用されるケースがあり、純銅スクラップに少量が混入しても気がつかずに出荷してしまう可能性が懸念されている。

銅の内側にアルミを重ね合わせた二層構造の銅管が一部で使用され始めている。銅管スクラップは伸銅、青銅合金メーカーなどが原料にするが、アルミが混入していると製品に不具合が発生する。

東京非鉄協組の上野雄三事務局長は「純銅でも二層構造でも外見は同じのため紛れ込んでしまうと見分けにくい。シャーリングなどにかけられたものは切り口がふさがり、中のアルミ部分が全く見えなくなるため、より注意が必要だ」と指摘する。